

アスベスト検出キット

型式 DK-ASB-3

使用法

DPD発色法による

DPD Coloring Method

適用建材 石綿含有建材 材料レベル1～3

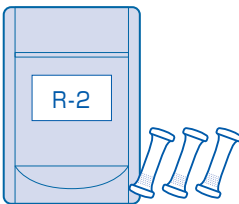
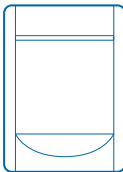
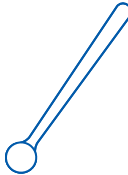
測定時間 約5分

安全対策

石綿のばく露を防止するため、適切な保護具を着用し、飛散防止対策を講じた上でご使用ください。

参考：環境省「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル」

https://www.env.go.jp/air/asbestos/post_71.html

梱包内容				()内は用途
R-1試薬 【材質：PE(容器)】 1本  (検液の調製)	R-2試薬 【材質：PE(チューブ)】 20本  (発色試薬)	チャック袋 【材質：NY/PE】 20枚  (反応容器)	さじ 【材質：PS】 1本  (検体の採取用)	カップ 【材質：PP】 1個  (R-1試薬の分取用)

特徴

- 建築物の解体工事・改修工事現場でのスクリーニング試験、作業工程効率化のための自主検査、災害時における簡易検査、産業廃棄物の簡易検査などにご活用ください。
- 建材の種類として、石綿含有吹付材(レベル1)、石綿含有保温材等(レベル2)、石綿含有成型板等(レベル3)のいずれにも適用可能です。
- 本製品は、広島県立総合技術研究所により開発された技術(特許第6781441号、第6864892号)を用いており、広島県とのライセンス契約に基づく製品です。

注意

- 本製品は、公定法とは測定原理が異なる簡易分析製品です。大気汚染防止法で定める事前調査、労働安全衛生法石綿障害予防規則で定める測定および行政への報告には使用できません。
- 工程管理や品質管理等に採用される場合は、簡易分析法の特徴と限界を十分にご理解いただいた上で、自社の責任にてご利用ください。
- 本製品は定性試験用です。石綿の含有率は測定できません。
- 建材の種類や性状によっては適用困難な場合があります。
- 本製品の使用は、日本国内に限ります。

使用前、使用後の取扱い注意

応急措置

試薬・検液が **目に入ってしまったら** → すぐに多量の水で洗い流してください。

試薬・検液が **皮膚や衣服にふれたら** → すぐに水で洗い流してください。

試薬・検液が **口に入ってしまったら** → すぐに水で口の中を洗い流してください。

試薬・検液を飲み込んだり、上記の措置後に異常がある場合には、すぐに医師の診断を受けてください。

特に試薬を飲み込んだ場合には、水または牛乳を多量に飲み、すぐに医師の診断を受けてください。

試薬の有害性は外箱の「GHSに基づく表示」、SDSをご参照ください。

保管

試薬は、乾暗所(常温)で保管してください。R-2試薬は袋のチャックを閉めて密封保管してください。特に夏場や梅雨時には、保存状態により数日で試薬が劣化することもあります。

廃棄

事業活動で使用する場合は、各関係法令に従って適切に廃棄してください。

検液に石綿が含有していた場合、使用後のチャック袋は、廃石綿等と同様に処理してください。



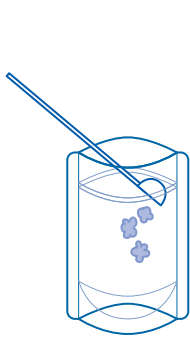
株式会社 共立理化学研究所
KYORITSU CHEMICAL-CHECK Lab., Corp.

神奈川県横浜市緑区白山1-18-2 ジャーマンインダストリーパーク
TEL: 045-482-6937

測り方

※検体を取り扱う際には、石綿のばく露防止のため、適切な保護具を着用してください。

1. 検体の採取



①チャック袋を開いて自立させ、付属のさじで検体を0.1g採取します。

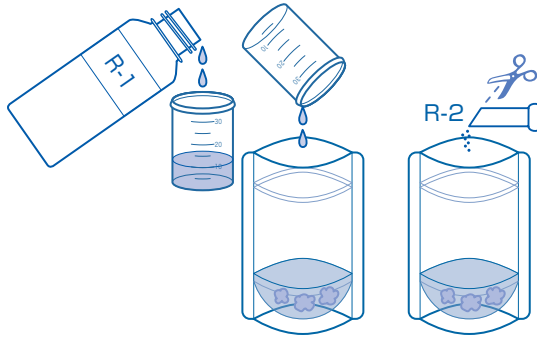
<0.1gの目安>

●綿状の検体:さじ半分～1杯

●粉状・礫状の検体:さじ1/4～1/3

検体により嵩密度が異なるため、再現性を高める場合は電子天秤で量り採ってください。

2. 試薬の添加



②R-1試薬をカップに10mL分取し、①に加えます。

③R-2試薬を②に加えます。

④チャックをしっかりと閉めて、5～6回程度振り混ぜます。
これを検液とします。

3. 判定



⑤5分直後に検液の色を確認します。
石綿を含有している場合は、
淡桃色～赤色に発色します。

測定上の注意

1. 建材中の石綿の含有率が高いほど、赤色の発色が強くなります。
2. 建材の種類によっては、石綿が含まれない場合でも発色する場合があります。(偽陽性)
3. 検体の径が大きすぎる場合は、試薬と反応せず発色しない場合があります。(偽陰性)
4. 発色しない場合でも、石綿が非含有である証明にはなりません。必要に応じて公定法に従い確認してください。
5. 「測り方」⑤で、検液を長時間放置すると着色または退色する場合があります。必ず5分直後の発色で判定してください。
6. カップ、さじは繰り返し使用します。さじは前の検体が残存しないように、よく拭き取るなどしてからご使用ください。チャック袋は1回ごとに使い捨てです。
7. R-1試薬および検液の温度は、20～30℃で測定してください。
8. 屋内で測定してください。屋外では紫外線により、石綿の有無に関わらず検液が淡赤色に発色する場合があります。

共存物質の影響

- 酸化性物質が混入すると、偽陽性となる場合があります。水道水に含まれる塩素(次亜塩素酸塩)などが混入しないようにご注意ください。
- 還元性物質が混入すると、偽陰性となる場合があります。
- セメント、ケイ酸カルシウム板では偽陽性となる場合があります。
- 発色時の検液のpHは約5です。強酸性・強アルカリ性の検体には適用できない場合があります。